活動の中では，話合いの場面を大切にし，友達や身近な大人との関わり方を学べるようにします。中でも，主張が対立したり，思い通りにならなかったりする葛藤場面に丁寧に関わることで，相手と折り合いを付ける力や，感情をコントロールする力を身に付け，社会性を高められるようにします。近年注目されている非認知能力を育む上でも，協同的な遊びや体験の充実は重要な役割を果たしています。

Ⅲ　自立心を高め新しい生活をつくり，安心して就学を迎えられる活動の充実

年長児は，これまでの体験から予想や見通しを立てる力が育ち，心身ともに活力があふれ，意欲が旺盛になります。また，自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ，自ら健康で安全な生活をつくり出すようになります。こうした力が高まる年長児後半では，それにふさわしい環境を整え，意欲や自立心を更に高める活動を工夫することが大切です。

一方で，先の見通しをもつことで，就学に不安を覚える子供が出てきます。こうした不安を乗り越えるためには，周囲の大人が子供の気持ちを受容し，応援することが大切です。「自分を応援してくれる人がいる」と安心感をもった子供は，変化の大きい接続期を自分の力で乗り越え，新しい生活を創り出していけるようになります。

また，小学校との交流を通して学校生活を具体的にイメージできるようにすることも，不安を解消する有効な手立てです。小学生との交流を通して小学校への期待をもち，安心して就学を迎えられる活動を充実させていきましょう。

（4）アプローチカリキュラムの作成

各園で作成する年長児の指導計画は，園の方針や地域，施設，園児の実態により当然違いますが，指針・要領で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にしながら，小学校との円滑な接続を意識したカリキュラムになっているか，見直していきましょう。

アプローチカリキュラム作成の手順

① 期待する子供の姿の共有
（資質・能力は？幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は？）

② アプローチ期の設定
（例）２期に分ける（10 月～12 月，１月～３月）
３期に分ける（７月～９月，10 月～12 月，１月～３月）

③ カリキュラムのデザイン（記載する項目の設定）
（例）ねらい，期待する子供の姿，重点指導事項，主な活動
環境構成のポイント，具体的な支援，幼保小連携・交流計画，家庭との連携など　※園所の実態に応じて設定

※アプローチカリキュラムの具体例は，別添資料参照

スタートカリキュラム

※現在作成されているカリキュラムの見直し・改善に御活用ください。

（１）スタートカリキュラムとは

幼児期の育ちや学びを踏まえて，小学校の授業を中心とした学習へうまくつなげるため，小学校入学後に実施される合科的・関連的カリキュラムのことです。

（２）スタートカリキュラムのねらい

Ⅰ　安心して学校生活をスタートし，集団の中で自己発揮できるようにします。

Ⅱ　学級の一員として自覚をもって，協働的に活動することができるようにします。

Ⅲ　幼児期に身に付けた力を発揮して，各教科等の学習に円滑に移行し，主体的に学ぶことができるようにします。

Ⅰ　安心して学校生活をスタートし，集団の中で自己発揮できるようにします

小学校へ進学するに当たっては，一つの学校に複数の園所から複数の友達と共に入学する子供もいれば，これまでの友達と離れ，たった一人で入学する子供もいるかもしれません。園所で慣れ親しんだ友達や先生と別れ，新しい友達や先生と出会う小学校生活の始まりは，期待ばかりでなく，不安や緊張などが入り混じった気持ちで迎えることでしょう。

そこで，スタートカリキュラムでは，まず一人一人が新しい人間関係を築くことができるように，心をほぐし安心感をもてるようにします。不安や緊張を安心に変え，新しい友達関係を築くことで，居場所ができ，「明日も学校に行きたい」と思えるようになるのです。

Ⅱ　学級の一員として自覚をもって，協働的に活動することができるようにします

新たな人間関係を築き，学級集団を形成していくためには，園所で身に付けた力を見取る必要があります。個人差はありますが，子供は園所での協同的な遊びや体験を通して，「協力して粘り強く取り組む力」「相手と折り合いを付ける力」「ルールを自分たちでつくる力」などを身に付けています。

スタートカリキュラムでは，集団での遊びや学級での活動を通して，友達と一緒に活動する楽しさや，共通の目的に向かって協力したり努力したりすることの大切さを感じることができるようにします。同時に，集団で活動するためのきまりやルールについて考えたり，話し合ったりする機会をつくり，子供が納得して受け入れられるようにします。

このように早い段階で，協働的な活動に取り組むことで，秩序ある学級集団を形成し，集団の一員としての自覚をもつことができるようにします。

Ⅲ　幼児期に身に付けた力を発揮して，各教科等の学習に円滑に移行し，主体的に学ぶことができるようにします

子供は，園所での生活や遊びを通してたくさんの知識や技能を獲得しています。また，試し，工夫し，粘り強く取り組み，新しい遊びや活動，作品を創り出す力を身に付けています。こうした力が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として表れています。

スタートカリキュラムにおいて，こうした姿を生かす活動や学習を意図的に設定することで，子供たちは，達成感や満足感を味わい，「や

ればできる」という感覚をつかみ，自信をもって学校生活を始めることができます。そして，友達や先生から認められることによって自己肯定感が高まり，更に成長していくことができるのです。

（3）スタートカリキュラム編成の留意点

Ⅰ　幼児期の育ちと学びを生かす
Ⅱ　生活科を中心とした合科的・関連的な指導を工夫する
Ⅲ　生活に即した学びを構成する
Ⅳ　弾力的に時間割を設定する
Ⅴ　学習環境を工夫する

Ⅰ　幼児期の育ちと学びを生かす

この時期の子供の発達特性を理解するとともに，特性に応じた指導方法を把握し，カリキュラムに生かすことが大切です。そのためには，近隣の園所を参観したり，保育者に話を聞いたりして，園所でのカリキュラムや生活の流れ，指導の実際を知り，カリキュラム作成に生かしましょう。

また，カリキュラム編成にあたっては，近隣の園所の保育者等と合同の研修会を行い，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通理解したり，アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムとのつながりを考えたりすることが大切です。職員同士の信頼関係を築き，互いの子供観・指導観を共有しながら，連続性・一貫性をもったカリキュラムを編成していきましょう。

Ⅱ　生活科を中心とした合科的・関連的な指導を工夫する

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ，生活科を中心として他教科等と合科的・関連的な指導を行ったり，子供の生活とつながる学習活動を取り入れたりしましょう。生活科での学習活動が他教科等での題材となったり，他教科等で身に付けた資質・能力が生活科において発揮されたりするなど，一層の学習効果が期待されます。